

高岡市総合計画第4次基本計画の「まちづくり指標」の進捗状況（令和4年度実績）

1 趣旨

- ・ 総合計画第4次基本計画では、施策テーマごとに「まちづくり指標」を定め、それぞれ5年間で達成すべき目標値を設定しており、年度ごとに個々の指標に掲げる目標値の達成状況の検証及び評価を通して、計画の進捗管理を実施している。
- ・ このような評価的視点に立った進捗管理により、各分野における施策の整合性の確保や効率性の向上につなげ、総合計画に掲げるまちの将来像の実現を図る。

2 「まちづくり指標」の令和4年度実績（年次目標ベース）

分 野	指標数	達成状況（上段：指標数、下段：分布割合）					備 考
		100%以上	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	
1 地域産業	12	7	1	0	1	3	80%以上 8
		58%	8%	0%	8%	25%	67%
2 歴史・文化	4	2	0	0	0	2	80%以上 2
		50%	0%	0%	0%	50%	50%
3 交流・観光	18	8	1	3	1	5	80%以上 12
		44%	6%	17%	6%	28%	67%
4 子育て・教育	18	11	2	3	2	0	80%以上 16
		61%	11%	17%	11%	0%	89%
5 安全・安心	42	21	11	3	1	6	80%以上 35
		50%	26%	7%	2%	14%	83%
合 計	94	49	15	9	5	16	80%以上 73
		52%	16%	10%	5%	17%	78%

※達成状況の分布割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%にはならない。

3 総括

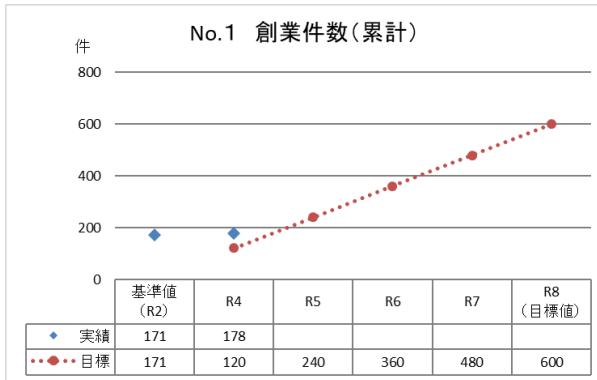
- ・ 第4次基本計画の初年度である令和4年度の目標値に対する達成状況は、100%以上の指標が49項目（52%）、90%台が15項目（16%）、80%台が9項目（10%）であった。80%以上を達成した指標は94項目中73項目（78%）となった。指標が異なるため、単純比較はできないが、第3次基本計画の最終年度である令和3年度に80%以上達成していた指標の割合（96項目中60項目、63%）を上回った。
- ・ 令和4年度においても、外出行動の抑制やイベント・コミュニティ活動の中止等、新型コロナウイルス感染症による影響が続いていること、入込者数等の指標において実績値が目標値まで伸びず、「1 地域産業」「2 歴史・文化」「3 交流・観光」において目標値の80%以上を達成した指標の割合が、比較的低くなっている。
- ・ オンラインの活用など開催・実施方法の工夫を行ったことで、「No.15 市場街の現地イベント来場者数及びオンライン配信動画の視聴者数」や「No.75 防火防災講習会（デジタルコンテンツによる受講回数含む）参加者数」など目標を大きく上回った指標もあった。

4 分野別の評価

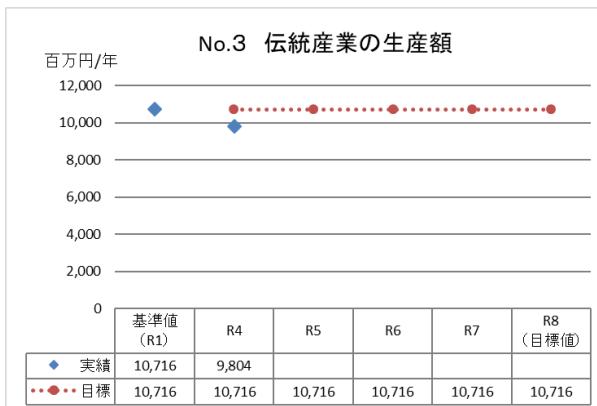
(1) 地域産業

«主な「まちづくり指標」の分析と対応»

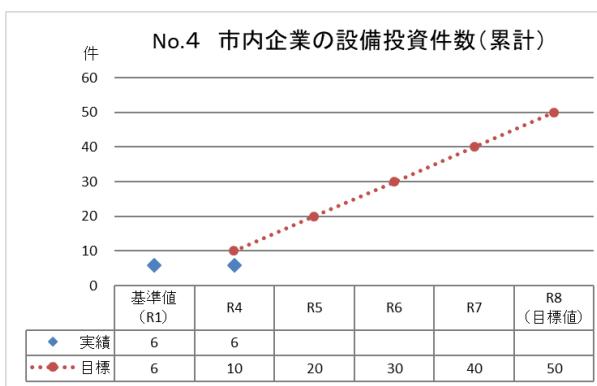
【商工業】



- 各種創業セミナーや創業・事業承継支援補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、創業者支援・事業承継ネットワークの各機関との連携による切れ目のない支援を実施し、目標を達成することができた。令和5年3月に開設した「TASU（高岡まちなかスタートアップ支援施設）」において伴走支援を行っていくことで、更なる創業支援の取り組みを進めていく。

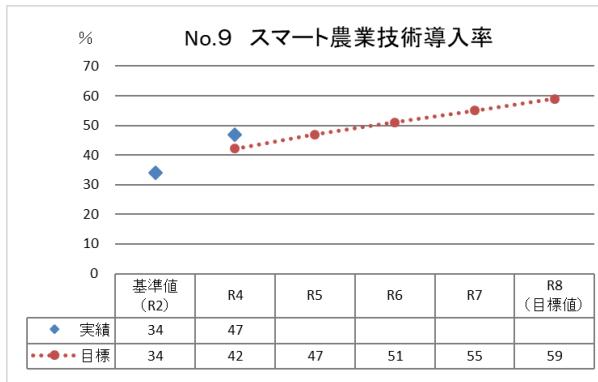


- 伝統産業における後継者育成や販路開拓に取り組む事業者の支援等を実施したものの、目標の達成には至らなかった。今後は、より一層、ニーズを捉えた商品開発や海外も含めた販路開拓に取り組む事業者の支援に努めていく。

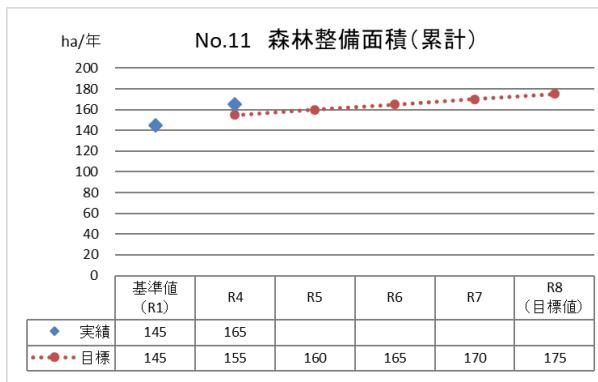


- 首都圏等で開催する企業立地セミナーや企業訪問等を通して、立地環境の優位性や立地に係る支援制度などのPR活動を実施したが、目標には達しなかった。令和5年度からは、市内の空き工場等の利活用を促進するため、遊休不動産を活用した設備投資に対する支援制度を開始しており、企業誘致や企業の設備投資の支援に、より一層取り組む。

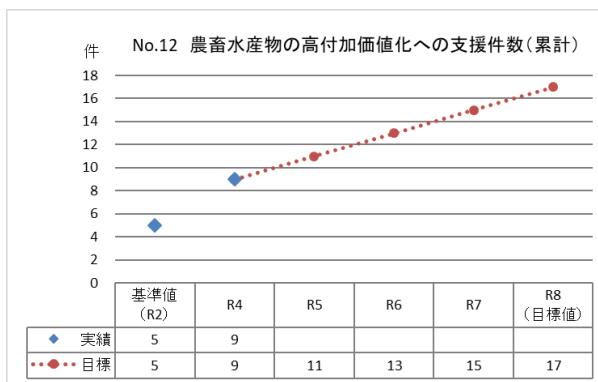
【農林水産業】



- 令和4年度においては、高性能田植機や水管理システム等の導入に対して、市の補助事業で2件、高岡地域担い手育成総合支援協議会の補助事業で1件の支援を行い、目標を達成した。令和5年度は農業用ドローンの導入等への補助制度の活用を見込んでおり、効率的な農業展開及び技術継承の円滑化に向けて、支援に取り組んでいく。



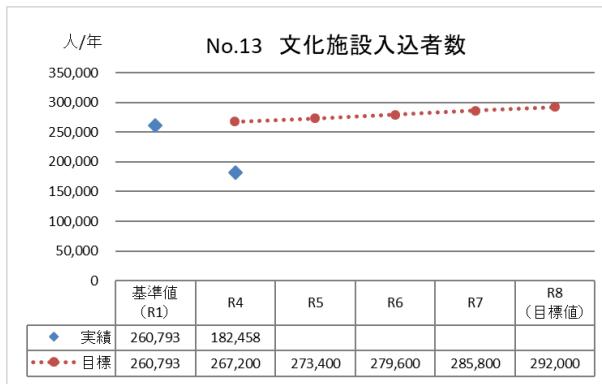
- 令和4年度は里山再生整備事業により2地区で約7haの森林整備に取り組み、年次目標を達成した。今後も継続的な目標達成に向けて、新規地区の開拓に努め、森林の持つ多面的機能の増進と森林資源の充実を図る。



- 令和4年度は、農産加工品のパッケージ用機器の購入等の取り組み3件に対して補助を行い、累計支援件数の目標に達した。今後、制度や先行事例をより広く周知し、実施事業者の増加を図る。

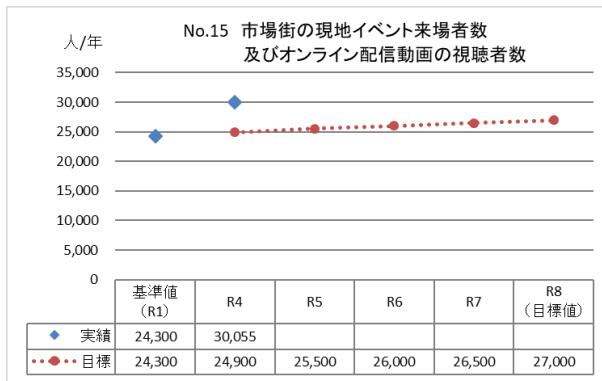
(2) 歴史・文化 «主な「まちづくり指標」の分析と対応»

【文化財】

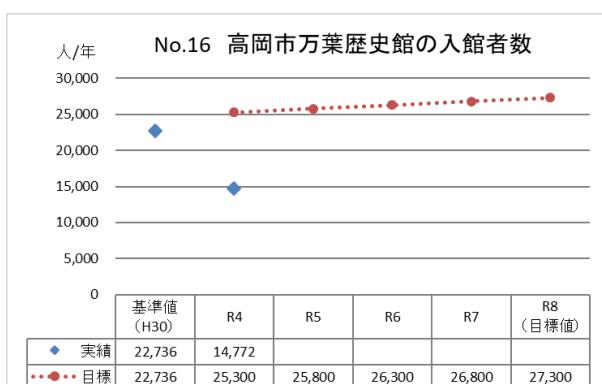


- 新型コロナウイルス感染症による影響が和らぎ、入込者数は回復傾向にあるものの、年次目標を下回った。令和4年12月に国宝へ指定された勝興寺では、令和4年の入込者数が約4万4千人となり、令和元年に比べて2.5倍に増加した。瑞龍寺と併せた2つの国宝をはじめとして歴史・文化資産の魅力をより一層発信し、入込者数の増加を図っていく。

【芸術・文化】



- 同時期開催のクラフトイベントと連携するとともに、高岡中央駐車場を会場とするクラフトマルシェなどの新企画を実施したことにより、目標値を達成した。引き続き、コロナ禍で生まれたオンラインコンテンツ「市場街TV」を活用しつつ、現地イベントに重点を置いた企画に取り組み、更なる集客や魅力の発信を図る。

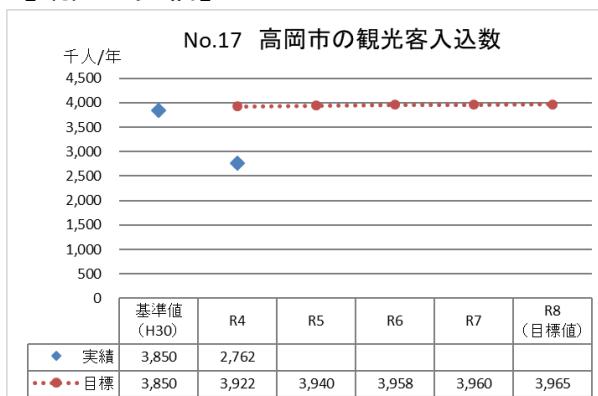


- 入館者数は徐々に回復しており、令和3年度より約2,200人増加したが、目標値には及ばなかった。「万葉歌碑魅力発信プロジェクト」で令和4年度に整備された英訳や解説等のコンテンツを活用するとともに、国宝に指定された勝興寺で高校生万葉短歌バトルを開催するなど、勝興寺と連携した事業に取り組み、万葉集や万葉ゆかりの地への関心の更なる向上を図る。

(3) 交流・観光

«主な「まちづくり指標」の分析と対応»

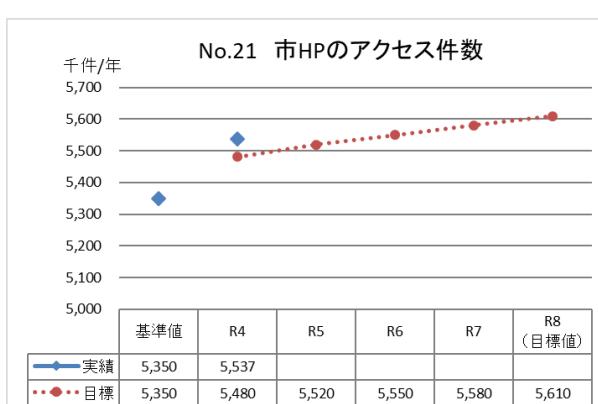
【観光・発信】



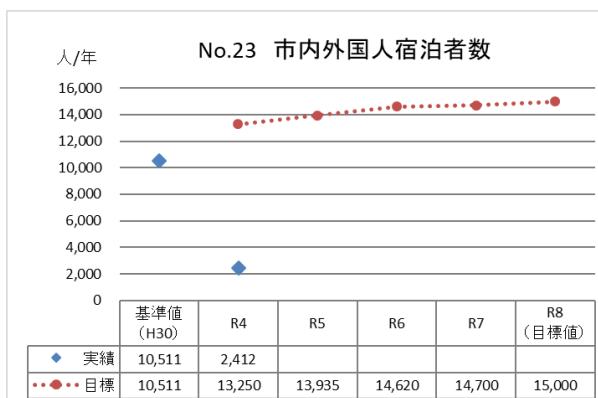
- 新型コロナウイルス感染症の影響が続いている、目標値を下回った。しかし、旅行制限や規制が緩和されたことにより、観光客入込数は令和3年より約93万人増加しており、今後は更なる伸びが見込まれる。広域連携による観光プロモーション等に、より一層取り組んでいく。



- 旅行商品の中で、特に交通系の1日フリーきっぷや、食をテーマにした「高岡彩食TAKAOKA SAIJKI」の売れ行きが好調であり、目標値を大きく上回った。今後も高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案に取り組んでいく。

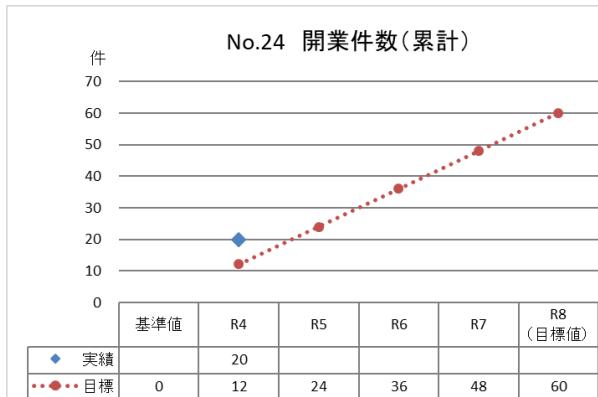


- 閲覧者の目を引く場所であるトップページのスライドショーやバナーを、旬の話題や市の重要施策のPRに活用し、市HPのアクセス数は目標値を上回った。今後も、スライドショー等を効果的に活用する。また、令和5年度にHPのリニューアル作業に取り組んでおり、年度末に新ホームページに切り替える予定である。引き続き、より分かりやすい情報発信に努める。

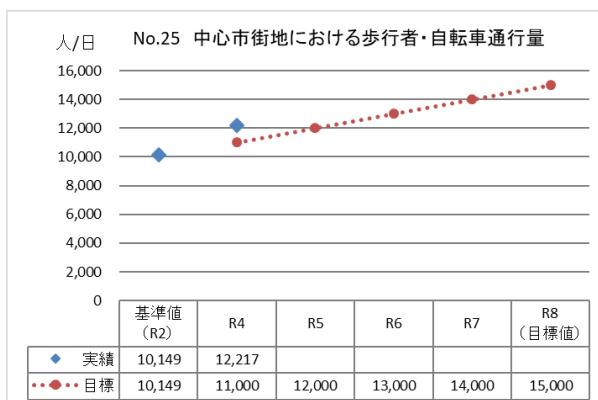


- 令和3年と比較すると約700人増加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、目標値を大幅に下回った。入国制限の緩和や円安等の影響によってインバウンドの需要は回復傾向にあることから、今後も外国人観光客の誘致に努める。

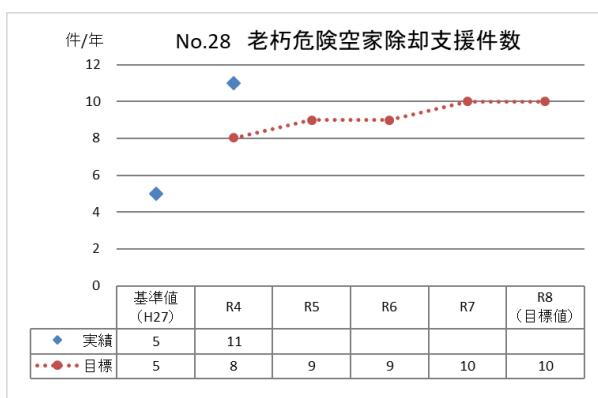
【商業・サービス業・中心市街地・宅地】



- 店舗の建設や改裝費に対する補助事業等の支援により、年次目標を超える数の店舗が新規に開業し、中心商店街や観光地周辺の賑わいに効果をもたらしている。引き続き、新規開業者の支援に努め、中心市街地や観光地の魅力向上を図る。

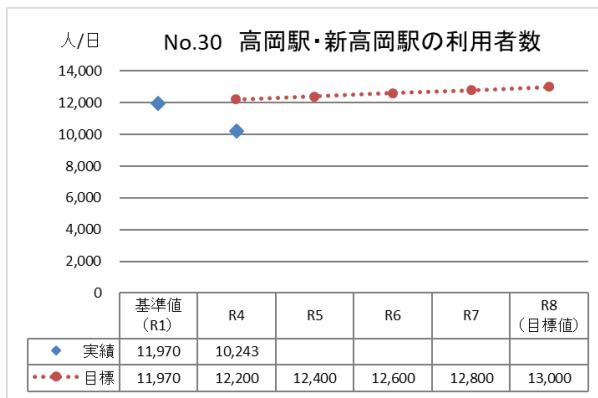


- セリオタウン構想及びリノベーションまちづくり事業の進展や、御旅屋人マーケットなどコンセプトを定めた誘引性の高いイベントの開催に取り組んでおり、目標値を上回った。コロナ禍に伴う人流減少から回復しつつあり、特に、休日に中心市街地へと足を運ぶ機会が増加していると考えられる。引き続き中心市街地への来街を促すことにより、まちなかに対する経済循環意識を醸成し、賑わいの回帰を図る。



- 空き家に関する相談対応や、空き家所有者等への指導等を実施し、年次目標を上回った。引き続き、老朽危険空家の把握に努めるとともに、工事費に対する補助等の支援を行い、除却の促進を図る。

【交通】

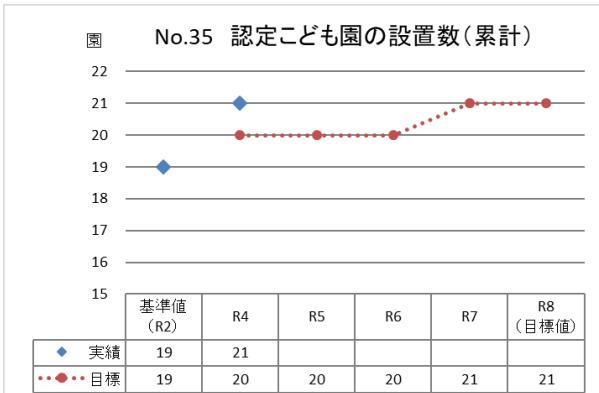


- コロナ禍による移動制限が緩和される中で、利用者数は令和3年度より約1,100人増加しており、回復基調にあるものの、目標達成には至らなかった。駅利用者数の増加に向け、各鉄軌道の更なる利用促進に取り組む。また、令和6年3月の北陸新幹線金沢・敦賀間開業等を見据えて、新高岡駅を基点とした二次交通を活用した旅行商品の充実や、同駅の施設機能の拡充を図る。

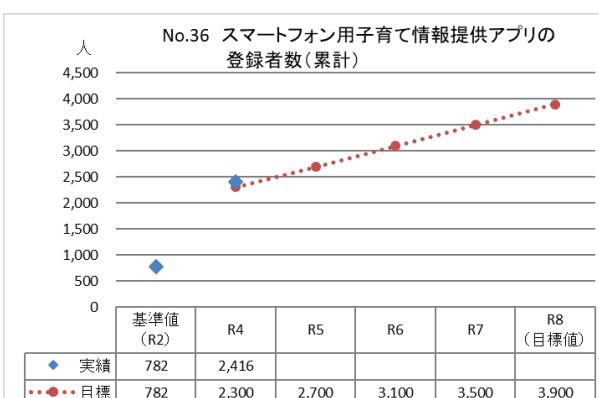
(4) 子育て・教育

«主な「まちづくり指標」の分析と対応»

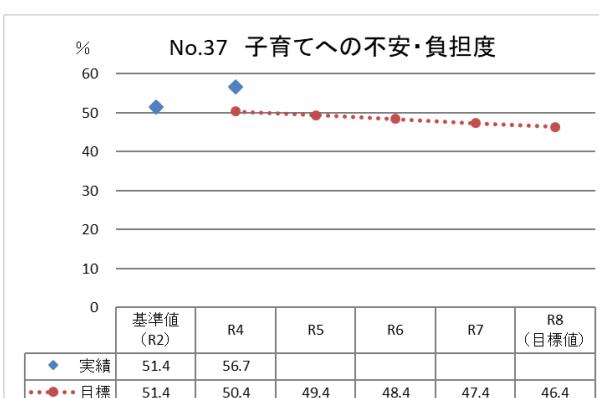
【子育て】



- 私立の保育所及び幼稚園から認定こども園への移行が進み、目標値を達成した。教育・保育の一体的提供と保育サービスの充実を図るために、今後も認定こども園への移行を推進していく。

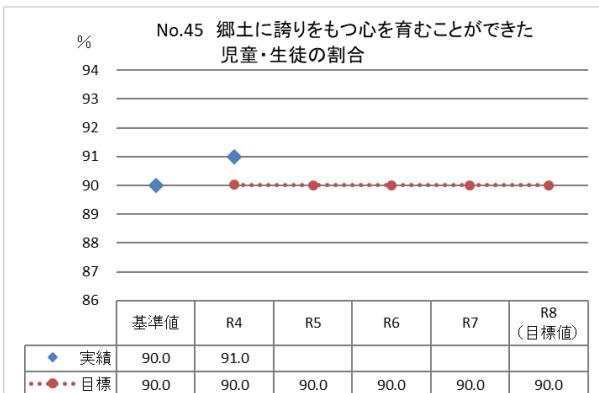


- 子育て支援センターのイベントの予約機能を追加したこと等により、ダウンロード数が増加した。引き続き、きめ細かい情報発信とともに、アプリ上で予約できるイベント等を増やし、より利便性の高いものとしていく。

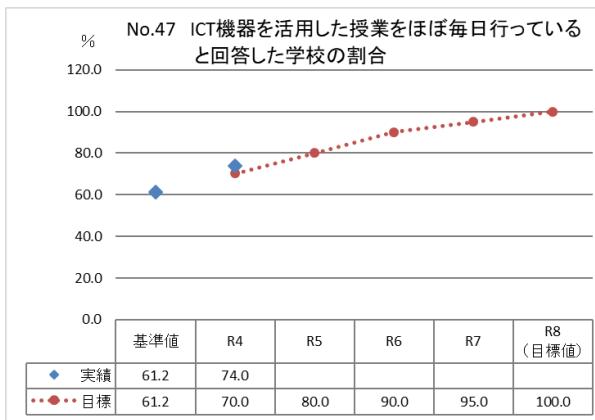


- コロナ禍での横のつながり等の希薄化や、物価高騰による経済的な不安要素が影響し、子育てに対し不安や負担を感じる保護者の割合が増えたと考えられる。育児で孤立しないよう、保健師とのオンライン面談・相談の体制を整備したほか、令和4年9月から第2子の保育料と副食費の軽減を実施、令和5年4月には子ども医療費助成の対象を高校生まで拡大した。引き続き、孤立を防ぐ施策や経済的な支援を実施し、子育てへの不安・負担の軽減を図る。

【教育】

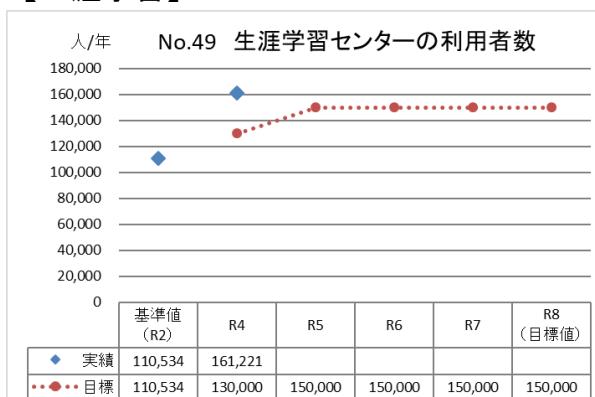


- ものづくり・デザイン科の学習において、工房等の見学や作品制作だけでなく、作り手から直接学ぶ機会を設けたことが、技のすばらしさや制作の苦労を感じ、高岡の伝統工芸を誇りに思う児童生徒の確保につながったと考えられる。今後も、伝統工芸の組合や指導講師と連携し、学習を進めていく。



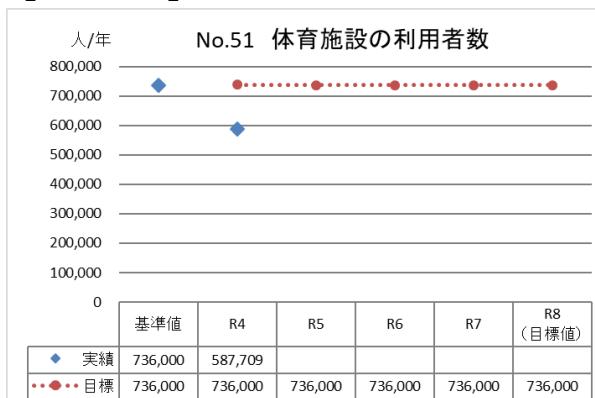
- 児童生徒同士でクラウドを活用した学習を進めたり、教師用デジタル教科書を大型テレビで提示したりするなど、ICT機器を積極的に活用している学級が増えている。発達段階に応じた学習専用端末の活用法を系統的にまとめ、活用事例等を提示することで、各学年での指導内容を明確にし、授業での端末の更なる活用を推進していく。

【生涯学習】



- 諸室や交流スペース等の利用が増加し、ホールについても芸術祭や音楽公演、企業の研修会など多くの団体に利用され、目標値を達成した。今後も幅広いニーズに対応できるよう、サービスの向上に取り組んでいく。

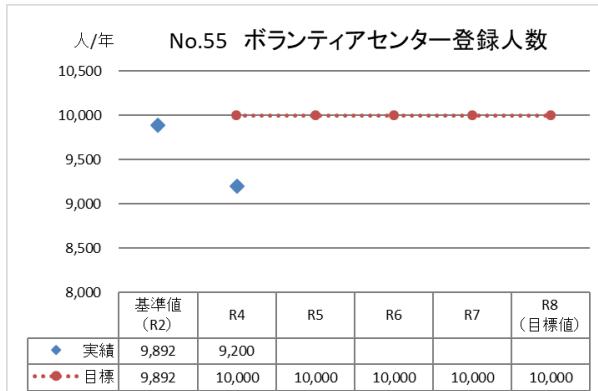
【スポーツ】



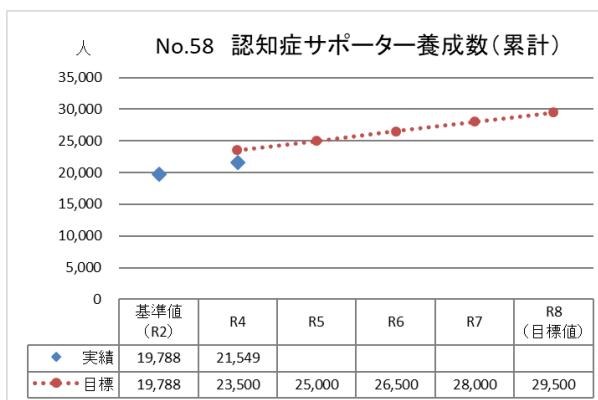
- 市民のスポーツ活動については、感染症対策を行いながらの再開が進んでおり、体育施設の利用者数も回復しつつあるが、目標値としたコロナ禍前の水準には達していない。スポーツを行う機会の提供等に、より一層取り組んでいく。

(5) 安全・安心 『主な「まちづくり指標」の分析と対応』

【福祉】

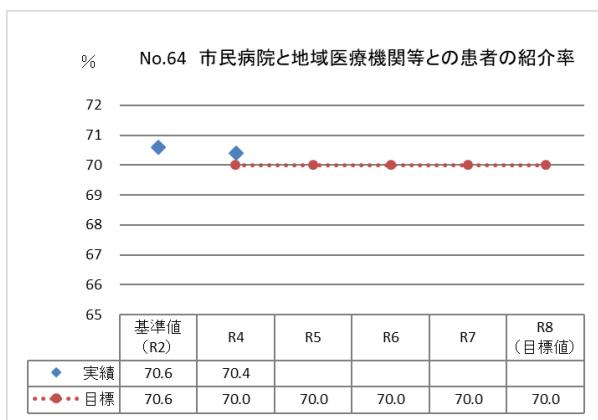


- コロナ禍での活動機会の減少や会員の高齢化、退職年齢の引き上げ等によるなり手不足により、登録者数は減少傾向にある。ボランティア養成講座等を通して活動内容や魅力を伝えるとともに、ボランティア団体への補助制度の見直し等、会員が活動しやすい環境が整備されるよう更なる支援を図る。

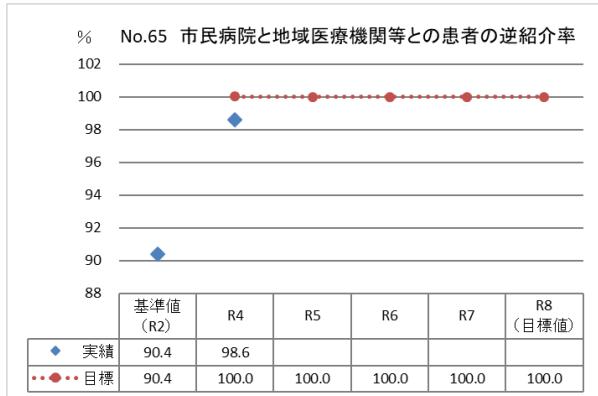


- コロナ禍の緩和に伴って、認知症サポート一養成講座の開催数は増えており、目標値には至らなかつたものの、認知症サポートー数も増加している。令和3年度から、「たかおか認知症パートナー宣言事業所」の登録制度を開始し、この登録要件として認知症サポートーがいること等を位置付けている。ホームページや地域での説明会の際に、住民や企業へより一層の普及・啓発を図っていく。

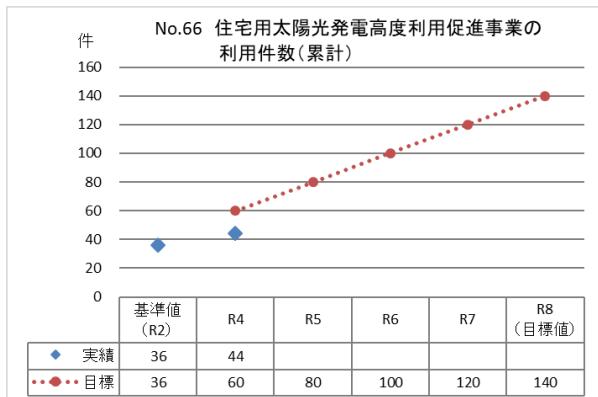
【医療】



- 高岡市民病院では、医療連携懇話会の開催、開業医訪問の実施、病院フェスティバルの開催、広報紙の発行等を行い、地域医療機関との関係づくりに努めている。紹介率は目標を達成し、逆紹介率も目標に近い値となった。引き続き、紹介率、逆紹介率双方の目標の達成を目指し、地域医療機関等との関係性を強化する。

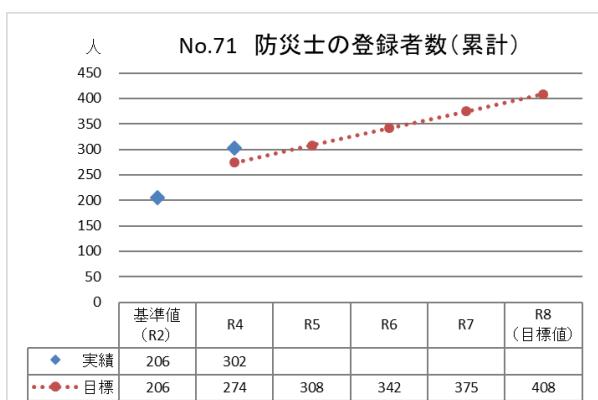


【環境】

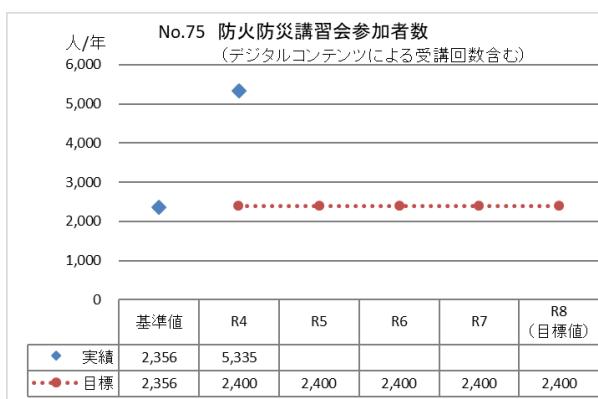


- 令和4年度の実績は基準値よりも増加したもので、うちPPA（第3者所有モデル）による補助件数が1件と伸び悩み、年次目標には達しなかった。補助制度の利用促進に向けて、環境フェアや市民向けのちらし等を活用し、市内全域での周知・啓発に取り組むとともに、「脱炭素先行地域」での取り組みと併せて中心市街地エリアにおける普及啓発を加速させたい。

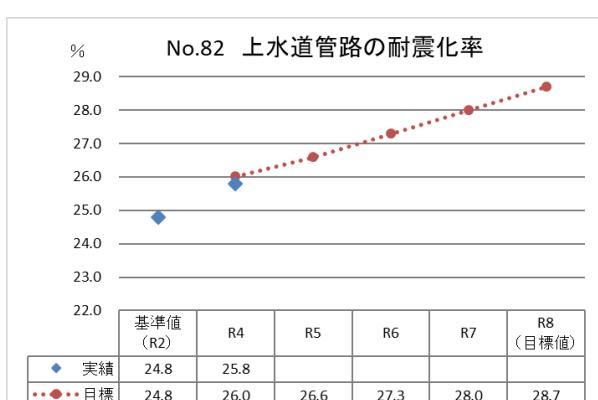
【防災・消防・水道】



- 防災士の登録者数は順調に増加している。防災士養成研修にかかる受講料等の補助を拡充することにより、資格の取得について一層の促進を図る。

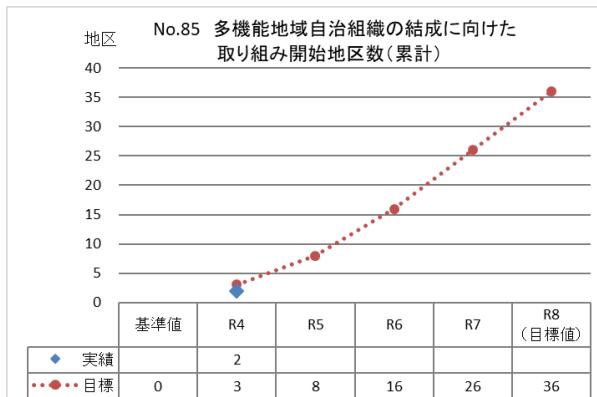


- コロナ禍からの回復に伴い、講習会の開催数が増加した。また、消防職員が他用務で出向する際には、本講習の併催に努めた。更に、市公式YouTubeにおいてデジタル講習のコンテンツを拡充したことが、参加者数の増加につながった。引き続き、講師派遣等についての案内を広く呼びかけるとともに、消防職員の出向と併せた講習やデジタル講習の充実を図る。

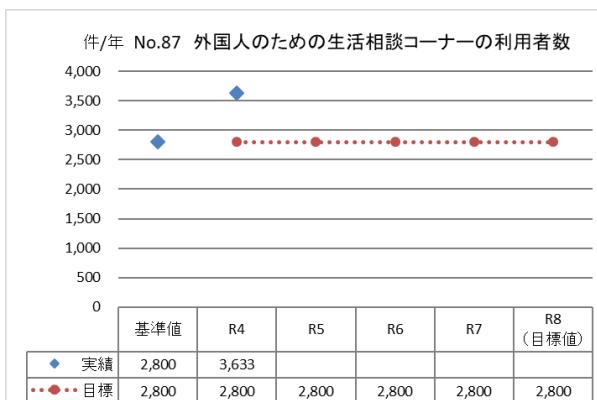


- 単価や労務費の上昇に伴う工事費の増大により、予定に対し施工量が減少した。浅層埋設や管路のダウンサイジングによるコスト縮減を図りつつ、施設の更新・耐震化に継続して取り組む。

【共創・多文化共生】

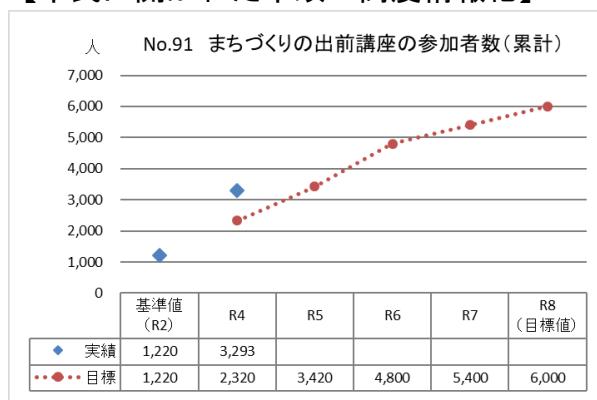


- 効率的な地域運営の参考となる県内の先進地視察などを行い、多機能地域自治への移行に向けて準備を進めているところである。先行して取り組みを進めてきた2地区に対し、新たに外部アドバイザーを招聘して導入の支援を強化し、設立準備会の設置を予定している。この2地区をモデル地区として、多機能地域自治型組織の有効性を示し、取り組みの拡大を図る。

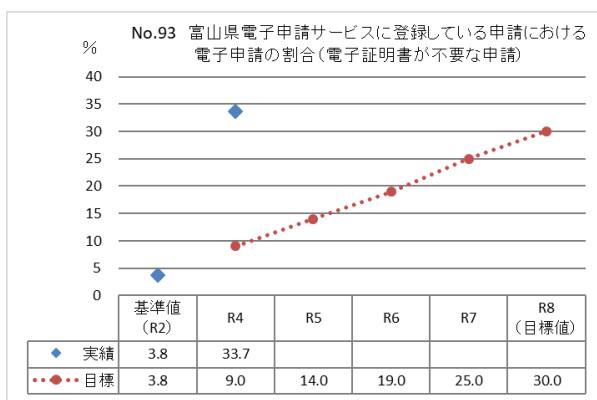


- 令和4年度から、外国人のための生活相談コーナーの開設時間を増やしたことが、利用者数の増加につながった。令和5年度も開設時間を更に増やすとともに、ベトナム語の相談員を新たに配置し、相談体制の一層の充実を図る。

【市民に開かれた市政・高度情報化】



- コロナ禍が落ち着きつつある中で、対面式講座の申込数も徐々に回復しており、年次目標の参加者数を大幅に上回った。令和5年度は、市長自らが出前講座の講師となって市民の集会に参加していくとともに、講座の種類を4種類追加し、参加者の増加に努めている。



- 富山県電子申請サービスに登録している申請における電子申請（電子証明書が不要なもの）の割合は、増加傾向にあり、目標値を達成した。引き続き、市の行政手続について電子申請が可能な手続を拡大し、市民が時間や場所にとらわれずに申請が行えるよう利便性の更なる向上に努める。